

vol.64 2025 秋号 源流からのたより

ぽたーい!

源流のひとしづく

つな
が
り
を
大
切
に
●
●
●
●

Key Word

- 窓からの眺め
- 基本的な役割を果たすと同時に地域資源としての活用をともに考えてゆく
- 源流につどった仲間たちと
- 里山の環境教育から豊かな探究心を育てる
- 地域や行事とのつながりを大切にする森と水の源流館
- 調査・研究でつながる

公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

森と水の源流館

奈良県吉野郡川上村大字迫1374-1
<https://www.genryuu.or.jp>

皆様のお家の窓からはどんな風景が眺められますか？

森と水の源流館の窓からの風景。

ここから望める宮の平の家並みやそれに折り重なる白屋岳を頂きとする山並み、真っ青な空、山並みを縫うように現れる霧、そして時に架かる虹など、本当に心癒されます。

窓は、何気ない風景でも、まるで絵画のように切り取って、特別なものとして鑑賞させてくれます。そして、絵画は心に癒しと落ち着きを与えてくれ、とても感性が研ぎ澄まされます。

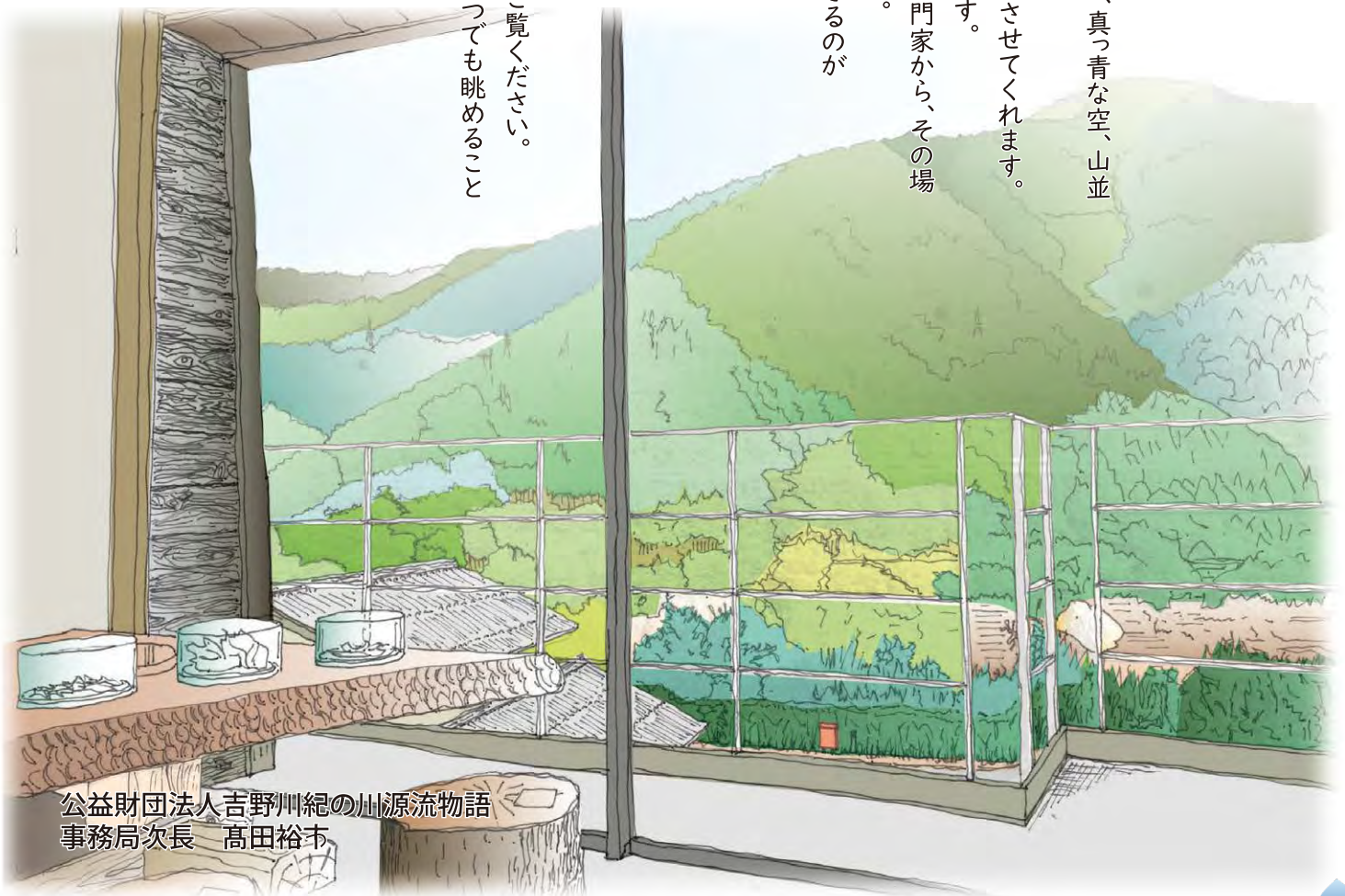
さらに眺めをいろんな方々と語ることで、かつて遊んだ頃の思い出話や、時には専門家から、その場所にある地域の資源、隠れている貴重な歴史などの話で盛り上がりつつもします。

このように、天気や季節の移り変わりだけではなく、時の流れも感じることができなのが「窓からの眺め」です。

窓からの眺め

当館からの窓の眺めを、一つの絵画展示として、次回ご来館の際には、是非ともご覧ください。

水源地の村づくりのこれまで、そしてこれから培われていく村づくりの歴史を、いつでも眺めることができるような「場」に、これからもなりたいと思っています。





国土交通省近畿地方整備局
紀の川ダム統合管理事務所
所長

お ば せ
小長谷 健 けん
さん



基本的な役割を果たすと同時に
地域資源としての活用を
ともに考えてゆく。

『緑のダム』のはたらきを伝える
川上村の取り組みに注目

ダムが有効に機能するためには、豊かな森が守られていることが重要。いわゆる『緑のダム』の働きである。

川上村では、源流域の森を保全することに価値を置いて、「水源地の森」を自ら購入し、村づくりの柱として発信するというすばらしい取り組みをされている。

大和平野との「水のつながりプロジェクト」、和歌山市の「加太小学校との交流」や「和歌山市民の森づくり」は、流域の自然の尊さを知り、水や森への感謝にもつながる取り組みとして注目している。

30年以上にわたる「水源地の村づくり」において、いつも「上下流交流」の視点を大切にしていることに、敬意を表するものである。

ともに知恵を出し合い
ダムのポテンシャルをいかす

2023年、大滝ダム運用開始10周年の記念式典でのシンポジウムで、子どもたちから出された「おおたき龍神湖」活用のアイデアを少しでも実現に近づけたいとの思いで、巡視船体験の機会に行った「龍神湖カフェ」の社会実験で、飲み物を片手に湖面からの眺



森と水の源流館主催の「夏休みワークショップ大集合」と同時開催した「トヨタソーシャルフェス in 奈良」での巡視船体験のようす

望や風を感じてもらっている。

今後、流域のみんなが水の大切さや厳しさなどを実感しながら、行動へとつなげていくことが大切。そのために、川上村にある「大滝ダム」「大迫ダム」「緑のダム」の3つのダムが連携していくことが効果的と考える。3つのダムが一体となりそれぞれが持つ異なる特色をいかすことで、新たな活性化の機会となり、更なる「上下流交流」にもつながるのではないかと。

2014年11月16日、川上村で「第34回全国豊かな海づくり大会」や「まどく」が開催されたことを機に同日を「源流の日」に制定。来年が10周年となる。あらためて水の恵みと流域のつながりを意識するとともに、「インフラツーリズム」の視点からも、それぞれのダムをつなぐような取り組みを関係者で知恵を出し合い実施したい。それにより、大滝ダムの存在がより身近なものとなり治水や利水の取り組みや防災への意識が高まればよいと考える。

大滝ダム運用開始から12年が経過しました。地球温暖化に伴う気候変動による異常気象で、激甚化する豪雨や洪水、また渇水などのリスクが増大し、私たちの暮らしに深刻な影響が生じています。このような中、下流域の暮らしを守るダムの役割や、川上村における水資源を活用する観点から、国土交通省近畿地方整備局紀の川ダム統合管理事務所、小長谷所長にお話いただきました。

暮らしの安全・安心のために

大滝ダム運用開始以降、下流域の自治体から、実感として洪水被害の軽減につながっているとの声をいただいている。ダムは、本来の役割を通じて下流域に向けて恩恵を供しており、ダムを抱える源流部には、あらためて感謝したい。暮らしの安全・安心を守るため、平素よりしっかりとダムの運用を行っており、昨今の豪雨に備えるために、一定の降雨量が予測された場合には、利水者の協力を得て降雨前

はじめ水位を下げ治水容量を増やす「事前放流」にも取り組んでいる。一方で、たくさん雨が降り続き、ダム水位が危険な状態になると予測された場合には、水位の上昇を抑えるため流入量を限度に放流量の増量を行う場合もあるため、洪水被害が発生する可能性もある。いざという時は避難など命を守る行動がとれるよう日頃から住民一人ひとりが防災意識を持つことが大切である。

また、利水面では、気象予測の精度向上とともに、ダムに流入する水量の把握技術も向上し、降雨が予測されない場合はそれぞれの時期で決められている水位以上に水を貯め、ゆっくり放流することで発電量を増やすといった、カーボンニュートラルに寄与する取り組みもはじめており、暮らしの安全確保はもとより、水資源の利活用も含め、国としても創意工夫を重ねた運用をめざしている。





夏休みワークショップ大集合×TOYOYA SOCIAL FES!!

源流につどった仲間たちよ

自由研究や工作の宿題に困っている。そんな声をきっかけに始まったのが夏休みワークショップです。森と水の源流館へ学校行事で訪れた子どもたちが「もっと知りたい!」「もっと体験したい!」と、夏休みにご家族と再来館されるのを応援しようと実施してきました。以前は数日に分散していたものを大集合させ、徐々に規模を拡大しています。川上村の名人たちだけでなく、今では取り組みを通じて知り合った源流人会会員、吉野川紀の川流域や各水源地域で活動する個人・団体がそれぞれ面白いワークショップを企画してくれています。

今年のテーマは「みんなの森とみんなの水で つなごう地域の恵み」。源流の森から水という共通点でつながり、それは地域の恵みとなって人々へと広がります。

テーマには地域の自然や文化の素晴らしさに気づき、未来へとつなぐ仲間を増やしたいという思いをこめました。また、今回はトヨタソーシャルフェスも同日開催し、おたき龍神湖畔の龍のモニュメント広場を会場に、参加者数名には大滝ダムの協力で湖面の巡視艇乗船体験もしていただくなど、普段は行くことの出来ない場での貴重な体験をしていただきました。

水源地域で活動する人と都市部に暮らす人、あるいは昔を知る大人とこれからを担う子どもが集まり、地域の資源の価値にあらためて気づいてもらえる“場づくり”にこだわることが、この事業の本質だと考えます。



カメやカエルにタッチしたよ!



今と昔の箸を使ってみた。器用な人はどっちも得意!



おたき龍神湖の浮棧橋を渡って巡視艇体験ワクワク!



プリザーブドフラワーを使った工作体験!

[special thanks]

- 白い犬～Anjing Putih～ 杉と桧でつくるマグネット
- 和歌山県立紀伊風土記の丘 手鏡づくり体験
- 森色クラフト 流木にアレンジメント
- 里山倶楽部 里山と暮らす～里山の恵みで衣食住を楽しもう～
- 橿原市昆虫館友の会 昆虫クラフト
- 山野草の里づくりの会 里あそび
- 環境省吉野管理官事務所 よしくまパネル展
- 和歌山県立自然博物館 生きものタッチプール
- 川上村地域おこし協力隊ほか 川上村写真展・MC
- かわかみらいふ、出張移動スーパー
- 杉浦農園 農産物販売
- 柿の葉寿司の里・かわかみ 柿の葉寿司の販売
- 山の暮らしのおすそ分け 川上村の特産品販売
- 紀の川じるし 吉野川紀の川流域の恵み販売
- 歴史に憩う橿原市博物館 めざせ達人「箸の使い手選手権」
- かわかみ源流ツーリズム 川上村の観光コンテンツPR
- 川上村商工会なでしこ会・かわかみ食楽クラブ 郷土料理調査
- ～ and 下流にはいつもきれいな水を流すためゴミの分別回収にご協力いただいた皆様～
- 奈良新聞社・奈良トヨタグループ各社・大阪工業大学
- ・大滝ダム管理支所 トヨタソーシャルフェス
- 暮らす宿 HANARE メインビジュアル制作



おすすめの柿の葉寿司はありますか?



吉野熊野国立公園についての展示・解説もあるよ!



吉野川紀の川の上流・中流・下流をめぐる、めぐみ販売!



おたき龍神湖の湖面利用についてアイデア募集!

実はこのイベントは私たち職員や出店者同士にとっても地域の課題や取り組みについて情報交換や学びができる貴重な交流の場となっています。

真夏ゆえの天候の急変や当日の気温に一喜一憂したり、改善点もあったりしますが、参加者と出店者双方から「来年も源流館に来るね!」と言われると「やってよかった!」と心から思えます。

出店者の皆様へご案内

今回大集合していただいた出店者の皆様とは、これから、ともに地域の課題や取り組みを共有し、一緒に何か行動できることはないか意見交換できればと思っています。Web会議なども企画していきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。



学校敷地内にある里山が生み出す特色ある教育

ともしもに
いいき輝く
活動をご紹介

奈良学園中学校・高等学校と

奈良学園中学校・高等学校（以下、奈良学園）は奈良県の北西部、大和郡山市の矢田丘陵の里山に13ヘクタールの校地を持ち、恵まれた自然環境を活かした特色ある教育活動を行っている中高一貫校です。当該地域の特色を生かした教育課程を編成・実施して研究開発を行うことができるSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を文部科学省より受け、平成24年から独自のカリキュラムによる授業の展開や、大学・研究機関との連携による授業、地域の特色を活かした課題研究などを展開しており、森と水の源流館も環境研修のお手伝いをして5年目となります。今回はSSH担当の原孝博先生に活動のご紹介をいただきました。

矢田の丘里山探究クラブ

「里山発」豊かな探究心を持ち、次世代を創造する科学技術人材の育成を目指すSSH事業の一つとして実施している「矢田の丘里山探究クラブ」は、校地面積のおよそ半分を占める里山をフィールドとして展開する課外活動であり、全学年からの参加した有志（令和6年度は16名）が一人一つの研究課題を設定し、自分ごととして取り組んでいます。たとえば奈良県景観・自然環境課から協力依頼を受け、奈良県特定希少野生動物植物であるヒメタイコウチの生息域外保全に取り組むほか、校内に自生する奈良県絶滅寸前種サギソウ、絶滅危惧種ニホンアカガエルなど、地域の野生生物保全の取り組みを行っています。さらに、里山の更新で生じた除伐材を活用し、カーボンニュートラルの実現を目指す木質バイオマス発電の研究、校内を流れる小川を利用した小水力発電の研究も進めています。そのほか、大和野菜の一つ「筒井れんこん」栽培に向けた圃場整備にも挑戦し、生徒たちは里山の活用や持続可能な社会の構築に向けて日々探究を重ねています。これらの活動を後押しすべく、森と水の源流館の「ESD授業づくりセミナー」への参加によりつながりができた川上村の協力を得て、令和3年度より村が取り組む未来への風景づくりや水源地の森の保全などを研修の題材として活用しています。



奈良学園流「源流学」

これまで奈良学園では、日本各地で「森里海の連環研修」を実施し、森・里・海それぞれの環境保全について学ぶ機会を生徒たちに提供してきました。しかし、「1つのフィールドでの活動だけでは、環境保全を本質的に理解するのは難しいのではないか」という疑問が生まれ、新たな取り組みを模索していた中で出会ったのが、川上村・森と水の源流館が掲げる「源流学」でした。川上村では「水」をテーマに森里海をつなげる流域連携事業に取り組みされており、奈良学園のある大和郡山市も吉野川分水を通じてその流域に関わっていることが研修のきっかけとなりました。

実際に川上村を訪れた生徒たちからは、日ごろから里山に親しんでいることも相まって川上村の豊かな自然に共鳴し、川上村のみなさんが守られている水源地の森での活動を「自分ごと」としてとらえ、林学や環境学を学びたいと大学進学を志す生徒も少なからず現れています。

現在は、「源流学」の理念を奈良学園流にアレンジし、川上村を出発点として吉野川・紀の川流域全体をめぐりながら森里川海のつながりに焦点を当てた環境保全研修を構想しています。暮らし続ける地域づくりを学ぶため、生命の源であり、物事の始まりである源流から地域の役割を発信し続ける川上村の取り組みを参考に作り上げていきたいと考えています。

時とつながる

地域や行事とのつながりを大切に森と水の源流館

丹生川上神社で水への祈りが始まったのは1350年前。今年、上社で奉祝行事が行われました。かつての上社旧境内は大滝ダム湖の底にあります。跡地の発掘では古代よりの祭祀の道具が見つかり、さらに縄文時代の祈りの跡も見つかりました。

森と水の源流館では、この祈りの場「宮の平遺跡」を常設展示しており、このたび特別展示として檀原考古学研究所からお借りした祭祀の道具を展示し、当館の窓から望める上社のご神体・白屋岳や巨岩（磐座）とともに紹介させていただきます。

貴重な発見があった宮の平遺跡

当館をどのようにしたら「活かされるのか」について、日々知恵を絞る中、今回、上社1350年奉祝大祭の節目となる展示として、あらためて宮の平遺跡に注目し、特別展示を企画・実施できたことは、地域の活性化の観点でも非常に意義があったと感じています。

祈りが続いているこの地で、来々が10年目となる川上村「源流の日」を前に、時がたなく様々な思いを是非感じていただければと思います。



上：当館から見る白屋岳と巨岩（磐座）
下：特別展示した神社関係の品々



特別展示で地域とつなぐ

上社ができた頃、川上村全域は「水源地の森」のような鬱蒼とした森だったと考えられます。その中で古代の人たちはこの場所を選び、遅くとも奈良時代には水への祈りが始まりました。発見された奈良時代の土器には、なぜか製塩用の土器や寺院で使われる鉄鉢が含まれていました。どのような祭りであったのか興味深いものです。中世の社殿に置かれていた金色に輝く懸仏という仏像もあり、神と仏を一緒に祀る「神仏習合」による神社の姿が伺えます。賽銭として投げ込まれていた古銭や、直会の席で使われたであろう小皿からは、地域の人たちが神社に集った様子が想像できます。

丹生川上神社上社（宮の平遺跡）からは、縄文時代から現代に至る、吉野川源流での人の営みを示す品々が数多く見つかっています。今回、その一部を2週間と短い期間での特別展示で紹介しましたが、常設展示での見せ方の工夫なども含めて、地域の資源をつなぎ、価値を高める展示のあり方を引き続き検討していきたいと考えています。

参考文献

奈良県立檀原考古学研究所2003『宮の平遺跡Ⅰ』（奈良県立檀原考古学研究所調査報告）84冊）

事業レポート
調査・研究でつながる

森と水の源流館では、事業の幹となる「調査・研究」分野をより拡充し、特別展示として活かしたり、源流人会の会員活動を充実したりするなど、皆様とともに川上村や紀の川流域が抱える課題解決につながるような取り組みを、さらに進めていきたいと考えています。

令和7年度期間展示

分解者

10/4
5/12

水・大気・土壌・植物・動物。空間や生きもの同士が互いに支えあい、安定した栄養の循環が生じる集団を作り出している様子を「生態系」と呼びます。生態系を支える生きものたちには大きく分けて3つの役割があり、光合成を行い自ら栄養を作り出す植物を「生産者」、動植物を食べ、排泄物や自らの遺骸を通して栄養を運搬する生きものを「捕食者」、動植物の排泄物や遺骸を食べ、栄養を土に還す生きものを「分解者」と呼んでいます。



いや、そんな難しいこと言われても…と思われる方もいらっしゃると思いますので、生態系の生きものたちの役割をレストランに例えてみましょう。

料理人が生産者、お客さんが捕食者とする、後片付けをするスタッフが分解者に当たります。店舗である生態系の「掃除」をする分解者は、裏方でありながら大変重要な役割を担っているのです。期間展示では有機物を分解し、生態系に栄養の循環をもたらす菌類と生体系の掃除屋として機能している昆虫を紹介しています。あわせて、土壌動物を抽出する装置の作り方、キノコの胞子紋を採集する方法、目に見えない分解者を手軽に観察する方法なども紹介しています。その他にも、樹木が分解されて土に還るまでの様子や、ハナムグリの幼虫の生態展示なども行っています。



・分解者を顕微鏡で観察してみよう！ ・土壌動物を抽出するツルグレン装置

それぞれの生きものが自身の役割を果たすためには、他の生きものとの連携が不可欠です。生態系つながりの中で、分解者という裏方的な存在であっても、生物多様性を支える大きな役割を持っていることを感じていただければと思います。

さらに特典充実の源流人会
入って、つながって、活動して！

源流人会特典のひとつとして9月23日に「水源地の森オンライン学習会」を実施しました。遠方の方からもご参加いただき、「水源地の森にすぐく行きたくなった！」との声も早速いただきました。

イベントのチラシだけでは「どんな準備がいるのかな？」「体力的に自信ない」などの不安があつて参加を見送る方や「日程が合わない」「遠くて行けない」という方もいらっしゃいます。源流人会会員の皆さまには、今後イベントに加え、オンライン学習会、動画の公開などを通じて、不安の解消や会員だからこそ現地に来なくても楽しめるコンテンツを充実していきたいと思っています。

「吉野川源流—水源地の森」は500年以上手つかずの天然林が広がります。「水源地の森環境学習ツアー」でのみ立ち入ることができるこの森には、当館から約25kmバスで移動し、その後、険しい山道や丸太橋などを渡って歩く必要があります。



「この景色が見てみたい」でも…という方にも楽しんでいただけるような機会を増やしていきます。

わたしにも
応援できることありますか? はい
是非とも
ごいっしょに!

吉野川
紀の川
源流人会で

応援1
まずは会員になって
つながりましょう!
さまざまな特典があります。

応援2
専門家が同行する
調査や作業に
参加しましょう!

応援3
いっしょに
「川上村」について
深めましょう!

応援4
出会いとちに行動し
水源地の村づくりを
進めましょう!

活動報告会等で
さまざまな角度から
川上村に詳しくなりましょう。
みなさまからどんどん発信してください。

今回は実際のツアーの事前学習会という
意味合いも込めて、水源地の森の概要、必
要な服装や装備、どんな道を歩くのか、危
険生物で気を付けること、そして森の魅
力を、四季を通じた景色や生き物の違いな
どで紹介。最後にスタッフもなかなか行くこ
とのない、水源地の森の奥にある谷のはじ
まりから水が滴る様子もご覧いただきまし
た。ツアーで見られる四季折々の魅力ある
景色や生き物はタイミングがありますが、
オンラインでこそその強みで、紹介できまし
た。このような取り組みも含め、様々な「応
援メニュー」をどんどん充実していきますの
で、是非、源流人会の年度早々からのご入
会・更新をお待ちしています。会員のみな
様からも「こんな話が聞きたい・こんな活
動をしたい」などの声をお気軽にお寄せく
ださい。

源流人募集

年会費

個人 2,000円
家族 3,000円
学生 1,000円
団体 10,000円

郵便振替
00940-1-331163